

「パソコン通信の双方向性と相互学習」

ーその現状と可能性ー

西村美東士

- 1 ハイテク「強迫症」傾向との違い・・・成熟化としての「透明感」
- 2 「単なるニューメディア」との違い・・・情報量やスピードだけでなく
- 3 しろうと集団（ASCII、ネットワーク）からの情報発信
- 4 情報発信と双方向・・・ツリー型に対するリゾーム型
- 5 「趣味」としてのアマチュア無線との違い・・・開放と蓄積と発展
- 6 ネットワーキングとは、自立と相互依存の流動的な統合システムである
- 7 農業文明と産業文明へのアンチ・・・トレンド、ウェーブ
- 8 人間的交流の疎外に関して・・・「アイボールミーティング」、近メシ
- 9 ハイタッチを近代的機能集団に求める（「仮想空間」の評価）
- 10 今後の普及の度合について・・・「知的個別的大衆化」の可能性と限界
- 11 話し言葉、書き言葉、そして動画導入による再「墮落」の見通し
- 12 「学習」といえる「しろもの」かどうかについて
情報の教育力、要求情報と必要情報
- 13 重厚長大である「知」との関連・・・ARTとしての知
- 14 システム側の役割と可能性・・・一般的なユーザー教育との違い
- 15 公的機関がタッチする必要性と可能性
「知的生産」が内在的に持つ社会性、学習情報提供・相談
- 16 地域と脱地域、都市と地方